



「教派形成と神学校」

小峯 明

(神戸改革派神学校 理事長)

東関東中会 船橋高根教会牧師)

神戸改革派神学校の定款の前文には、以下の事項が記されています。

「神戸改革派神学校は、以下の本校設立の基本的立場に立って、キリスト教教師の養成と正統神学の建設をなすことを目的とする。

神戸改革派神学校設立の基本的立場

1. 本校はウエストミンスター信仰基準に表されている歴史的改革派神学を純粹かつ厳密に確信し、研鑽し、より聖書的神学の樹立を目指しつつ、これを弁証し、伝道し、教授せんがために経営するものである。
2. 本校はいかなる非聖書的な神学思想に対しても学的に戦うポレミックな立場を堅持するものである。
3. 本校は神道的、儒教的、仏教的たるを問わず、すべての異教原理や慣習がキリスト教会に混入することを拒否する立場を堅持するものである」(ポレミックは、論争、論戦という意味です)

神戸改革派神学校は、この目的の達成のために、神の真理を正確に教え得る教師、伝道者の養成のため、聖書の全般的知識と体系的理解に必要な神学教育(含語学)を行っています。そのために神学校舎を保有し、学生寮を設置し、運営しています。この定款が大会で承認されたのは、

1958年第13回大会でした。その後、数度の改正がなされていますが、定款の第9章第25条の2で定款前文に示された「本校設立の基本的立場」は、これを変更することはできないと定めています。

この基本的立場から、神戸改革派神学校(以下神学校)と日本キリスト改革派教会(以下改革派教会)は一体的であることがわかります。神学校は教派形成(伝道)の柱の一つです。神学校で改革派教会の教師が養成され、各地に派遣されて伝道と教会形成を担います。神学校無くしては、改革派教会の形成はできません。そして各教会伝道所の祈りと献金がなければ、神学校を維持することもできません。そして各教会伝道所から献身者が起こされなければ、神学校は空き教室だけの建物になってしまいます。

各教会伝道所の礼拝と伝道と教会形成の充実のために、神学校理事会と教授会と学生会は祈り続けています。そして各教会と伝道所も神学校の維持と授業と学生の召命感と学びのために祈っておられると思います。この祈りの協働により改革派教会は神学校と各教会と伝道所の働きの両輪によって日本宣教に仕えています。いつも神学校のために祈りと献金によってお支えくださり心より感謝いたします。

卒業生挨拶



本科課程(4年制)卒業

安崎 嗣穂

(あんざき つぐほ)

一般社団法人
みくにコイノニア
スタッフ

主の御名を賛美します。この度神のみ恵みによって神戸改革派神学校を卒業しました安崎嗣穂と申します。長いようで短かった4年間の生活では、人生で最も自分の信仰に向き合わされました。今私は深い感動と共に詩編131編の御言葉を噛み締めています。私は今まで30年近く、神の物語ではなく自分の物語を語っていたように思います。神学校での生活を経て、私はようやく、少しでも自分の魂を沈黙させることができるようになりました。今私は自分の魂を沈黙させて、ただ主を待ち望む生活を続けたいと心から願っています。神学校生活を支えて下さった教職員の皆様、お祈り下さった諸教会の皆様がこの場を借りて御礼申し上げます。

卒業後、私は一般社団法人みくにコイノニアで奉仕をするための備えをしています。みくにコイノニアは教会の業として知的障がいのある方々の施設を作ることを目的としています。知的障がいのある方々のための施設は既にこの世に数多くあります。私自身かつてそのような施設で働いていました。にもかかわらず、何故新しく、しかも教会の業として施設を作ろうとするのか。そのように思われるかもしれませんが、しかし、その働きを教会の業として行うことに大きな意義があると信じます。教会は神と神の民が交わる喜びの場です。そしてペトロが言うように、神は人を分け隔てなさらないお方です。(使徒言行録10:34) 障がいのある方、またご家族を神との交わりに招くためには、教会の業として活動する必要があるのです。

みくにコイノニアの働きはまだ始まったばかりです。現状は具体的な働きを目指して計画を立てている段階です。また、資材の高騰などの理由により、その計画の変更も迫られています。それでも、知恵を出し合いながら少しずつ進んでいます。どうかみくにコイノニアの働きのために覚えて祈ってくだされば幸いです。



本科課程(4年制)卒業

豊田 真史

(とよだ まさし)

四国中会
南与力町教会
定住伝道者

主の御名を賛美します。卒業から二ヶ月が経とうとしています。神学校で過ごした日々、それが本当に特別な時だったと思い起こしています。

私は四年前、神様の召命に応えるため、この神戸改革派神学校の門を叩きました。強い意気込みがありましたが、それでも一年生のギリシア語、ヘブライ語の習得は本当に大変でした。いつも私は「これは単なる言語じゃない。神様の言葉なのだ!」と自分に言い聞かせるようにして勉強していました。それから二年生以降の聖書学、歴史神学、組織神学、実践神学の学びも、自分の能力の足りなさもあり、苦労はしましたが、聖書のことを深く知ることができるのは、私にとって喜びでした。改革派の先生方が総動員で教育に携わって下さり、今に繋

がる学びを一つ一つ提供して下さり、心から感謝しております。また寮での共同生活もわたしにとって様々な意味で大きな益でした。神学校は勉強だけでなく、共同生活をする中で、自分の弱さを知り、また信仰的にも試される場でした。しかし、そのような難しさの中でこそ、罪人に示されたイエス・キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるか、示され、何度も神様に立ち上がらせられた経験はわたしにとってかけがえのないものです。

赴任して一ヶ月で私は教会の葬儀も経験しました。病床訪問、最後の看取り、葬儀の打ち合わせなど、初めてのことばかりでした。足りない奉仕だったと思いますが、その中でも何を

優先すべきか、主が何を求めておられるか、考えることができました。そのように現場で思考することができたのは、すべて神学校の先生方から教えて頂いたゆえです。吉田校長が「神学校のすべてのことに意味がある」とよく言われていましたが、本当に現場で働くために必要なことをきっちり教えて頂いていたのだと今改めて実感しています。神学校の職員・先生方に心から感謝しています。

4年間でお世話になった派遣教会、また夏期伝道での奉仕教会など全国の愛する改革派教会の皆様にも育てて頂きました。主にある交わりと奉仕を与えて下さり、感謝致します。



本科課程(4年制)卒業

服部 宣夫

(はっとり のぶお)

中部中会

静岡教会

定住伝道者

神学生としての最後の卒業説教奉仕を終えて寮を引き払ってから、早くも二ヶ月が経ってしまいました。振り返れば、生活の拠点を移すことに伴ってくる身のあれこれのやりくりと、遣わされた教会に仕えるための準備とに多くの時間と労力を割いてきた。そんな毎日だったという感慨を禁じ得ません。私が主から遣わされた任地は静岡県の静岡教会ですが、そもそも静岡は私の地元であり、しかも二年前に夏期伝道で一ヶ月間お世話になった教会が静岡教会でしたから、事前に抱いていた予測、すなわち定住伝道者としての着任もスムーズに行くであろうとの安易な予測は見事に裏切られてしまったといえます。それは引越しと言われるものが、そう簡単なものではなく、かつ教会には表面には顕れてこない引き継ぐべきことが様々あることを思い知らされる経験

でした。

しかしながら、定住伝道者として仕え働く日々は、一日一日が濃いものであることも実感しています。それは目の前の「課題」が即「恵み」であり、同時に「恵み」には必ず「課題」もついてくるのだという不思議な経験です。そして、そのような経験の最中、ふっとよみがえってくるものがあります。四年間、神学校で学んだ数多くのことです。そういえばあの時、こういうことを教えていただいた、こういう言葉を知った、こういう学びができたという記憶がよみがえてくるのです。神学校での学びは、教会での仕える働きのすべてにつながっていたと改めて申し上げることが出来ます。数々の記憶が今の一つ一つの判断と決断に大きく作用しているからです。

四年間、大事な場面で必ず教えられたことも思い出すことができます。それは「牧師の使命は学び続けることだ」ということでした。伝道の最前線で「学び続ける」ための確かな土台を、神戸改革派神学校を通して備えられたことを学校の先生方、職員の皆様、神学校をお支えくださっている諸教会に、何より私たちの主に心から感謝を申し上げます。

新入生挨拶



本科課程入学

市川 良英

(いちかわ よしひで)

日本同盟基督教団
蛍池聖書教会所属

主の御名を賛美申し上げます。蛍池聖書教会の市川良英と申します。私は3月で定年となり、42年間の中学校教員の働きを終えました。今まで将来を担う生徒の人間形成に誇りと魅力を感じ、仕事に携わってきました。しかし、思春期で多感な生徒の指導の難しさ、教えることの大変さ、公教育の中で福音を伝えることの困難も感じました。社会の授業、担任、クラブ(男子バレーボール部)を担当しました。多忙な日々の中で、福音を宣べ伝えることができず働いているだけ、証しができない自分の姿にジレンマを感じました。私がクリスチャンであると伝えた人もいますが、福音を伝えることの難しさを実感しました。今の私の祈りは、今までかかわってきた方々(友人、知人、教え子たち、保護者、先生方)の救い、これから

かかわる方々の救いです。もちろん、私の努力や力のできるわざではありません。「聖霊に満たされ、キリストの芳しい香りを放つ者として用いてください」というのが私の祈りです。

神様は、素晴らしいご計画をもって私を創造されたと思います。その目的は、「わたしの栄光のため」(イザヤ書43章7節)というみことばが示され、それに続く「あなたがたはわたしの証人、一主のことばーわたしが選んだわたしのしもべである」、「わたしのためにわたしが形造ったこの民は、わたしの栄誉を宣べ伝える」との御言葉が心に留まり、定年を機に、御言葉を直接伝える者になりたいとの願いが起こされました。もちろん、それにふさわしい者ではありませんし、あとどのくらいご奉仕できるかわかりません。でも私のすべての罪を赦し、永遠のいのちの恵みにあずかる者としてくださった主の計り知れないご愛に応え、一人でも多くの方々にこの福音を伝えたいとの思いで入学させていただきました。

入学へと導いてくださった神様、私を温かく迎え入れてくださった神学校の皆様、快く送り出してくださった教会、家族に心から感謝します。4年間の学びとお交わりをよろしくお願い申し上げます。



本科課程入学

岩井 和基

(いわい かずき)

日本福音自由教会協議会
清瀬福音自由教会所属

主の御名を賛美します。私は東京都の清瀬市にある、清瀬福音自由教会(日本福音自由

教会協議会)に所属しています。大学生の時に高知県にある山田教会に出席し、牧師先生からこの神戸改革派神学校の話聞いていたため、召しを受けた時から、この学び舎で学びたいと思い、祈ってきました。

私はクリスチャンホームで育ち、教会生活やhi-b.a.を通して高校生のときに洗礼を受けました。卒業後は数学科の教員をしていました。もともと直接献身については高校生か

ら考え、祈ってきました。しかし、社会人生活を送る中でその思いは次第に恐れへと変わっていきました。また、教員をしている時から、自分の将来について漠然とした悩みがありました。教員という仕事にやりがいを感じていたのですが、自分の中で本当に定年まで教員をするのだろうか、自分に与えられた賜物をどのように神の前に用いていくべきか悩み、葛藤していました。

そのような中で、数年前の旅先にて、自分の将来を考える中、エレミヤ書にある「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすどんな所へでも行き、わたしがあなたに命じるすべての事を語れ。彼らの顔を恐れるな。私はあなたとともにいて、あなたを救い出すか

らだ。一主の御告げー」この箇所から「みことばを取り次ぐ者」としての召しを受けました。

所属は福音自由ですが、このように道が開かれたことに感謝致します。多くの方の祈りと献金による支えにより、学びができていることを心より感謝します。まだまだ未熟な者ですが、神と人に仕えるために日々つくりかえられていきたいと思います。この者のためにお祈りいただければ感謝です。



本科課程入学

畑中 理和

(はたなか りお)

東部中会

田無教会所属

神学校での学びの道が開かれたことを主に感謝します。私が神様に召されているとはじめて気付いたのは、大学3年生の夏でした。それまで将来に漠然としたイメージすら抱けていなかった私に、御言葉を伝える者として仕えたいという祈りが与えられました。「神学すること」はしたいことの一つでしたが、それは最初、信徒として自分のために学びたいという思いであり、本気で向き合おうとは考えていませんでした。ですが、教会や子どもたちのキャンプでの奉仕を通して、その思いは次第に変えられていきました。私自身がこれまでの信仰生活を通して教えられてきた、神様が聖書を通して語りかけてくださることを知る喜びが、もっと広まっていくために自分の人生が用いられるこ

とを願うようになりました。

献身を志すようになってからは、今の自分は願っているはたらきにまったく相応しくない器であることを嫌というほど知られることになりました。神様に対しても隣人に対しても、愛し仕えることのできない自分に何度も出会いました。いつの間にか神様により頼むことを忘れ、自分の力に頼って失敗を繰り返しました。神学校の入学試験を終えてからの数日は特に、そのことで打ちのめされて過ごしたのを覚えています。ですが、そんな私をも神様は招いてくださり、またすべての必要が満たされて、この度の入学がゆるされました。

神学校に来てからは、私はまだ神様のことを全然知らなかったのだということを毎日実感しています。それに気づくたび、計り知れない神様を見上げて学ぶ営みを始められたことをうれしく感じます。4年間の学びと奉仕、神学校での生活を通して、必要とされている場所で福音を宣べ伝えることができる言葉を持った者に成長させられていきたいと願っています。



本科課程3年生編入

金慶熙

(きむ きょんひ)

東部中会

坂戸教会所属

昨年は特別研究生として、今年からは本科生として学びを続けることとなりました。先日、久しぶりに三浦綾子さんの自伝的小説『道ありき』を読み返す機会が与えられました。その中で、神の御手の中で人と人が出会い、福音が語られ、救いへと導かれていく御業の恵みを、改めて深く心に刻みました。そして、この神の御業の中で、自分も主に用いられる器となるのだろうか、御心にかなった歩みができているのだろうか、畏れを覚えつつ、身の引き締まる思いがいたしました。

昨年、いくつかの無牧の教会で奉仕する機会が与えられました。牧師不在という厳しい状況の中でも、信徒の皆さまが御言葉に渴きつつ、それでもなお神の国、神学校、そして他教

会のために熱心に祈り続けておられるお姿に触れ、深い感動と多くの学びをいただきました。信仰生活そのものが決して容易ではない中、それでもなお、他者のために祈り続けるその信仰に、心から頭の下がる思いがいたしました。教会の兄弟姉妹も、それぞれの痛みや試練の中で主を信頼し、御手に委ねて歩んでおられることでしょう。各地の教会の皆さまが、それぞれの場で信仰の道を走り続けておられるお姿にも、心から感謝しています。皆さまのお祈りと励ましに支えられ、こうして本科生として再び神学校に身を置く今、主の召しに応え、祈りをもってより深く御言葉を学び、霊性ある者として主に仕えていきたいと、心から願っています。

昨年、私を支えてくださった御言葉があります。「わたしは絶えず主に相對しています。主は右にいまし、わたしは揺らぐことはありません。」(詩編16:8) この御言葉に励まされながら、今年も主にあって喜び、どのように主に用いられるのかを祈り求めつつ、日々一歩一歩、主に忠実に歩んでいきたいと願っています。どうぞ、私のためにもお祈りに覚えていただけましたら幸いです。



特別研究課程入学

李 炳俊

(い びょうじゅん)

日本福音教団

徳島聖徒教会牧師

神戸改革神学校に在学していることを感謝致します。私の家族は妻と子供4人、合わせて6人です。韓国で神学校に在籍しながら教育伝道師として7年、卒業後伝道師また副牧師として3年、牧師として教会を開拓して11年、日本宣教師として働いて11年目です。

2014年、知人から日本への宣教を提案されました。しかし、それは私には不可能なことでした。宣教について関心、理論、日本語、文化、財政など、一つの条件も整っていなかったからです。それでも、神様の御心は「日本へ行きなさい」でした。信じられない衝撃でしたが、神様の御心に逆らうことはできませんでした。それで周りに引き止められたにもかかわらず、1ヶ月で6人の家族は無計画に日本にやってきました。それ以来、今までの生活は想像した以上の困難の連続でした。それでも神様のご計画があることを信じて忍耐しながら過ごしてきました。すると、神様は慰めと力と色々な機会を与えられました。徳島で地域の人々と共に良い関係を結びながら、香川ホサンナ教会に3年間出席し、

2017年に一戸建てを借りて徳島ホサンナ教会を開拓し、2023年に今の徳島聖徒教会と合併して働いています。

この神学校は日本に来てから、気に入って入学したかった学校でしたが、状況上、毎年諦めなければなりません。しかし牧会をすればするほど下手な言語、日本教会と神学などに対する無知によって、学びの必要性を感じました。それで状況はさらに難しくなりましたが、神様にすべてを委ね、本校に入学することになりました。二人の子は受験生（高3、中3）ですが妻に

任せ、毎週徳島と神戸を行き来しながら、平日は神学生として、週末は牧師として働いています。教団は違いますが、神戸改革派神学校の学生になったことは光栄です。一生懸命勉強して、日本の福音化のために少しでも役に立ちたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



『校報』No.98 巻頭言についてのお詫び

大西良嗣

(本学常勤講師、西部中会 宝塚教会牧師)

2024年12月に発行された『校報』No.98の1ページに掲載された私の文章について、懸念や悲しみ、不快な思いをされた方がいらったことをうかがいました。特にご年配の方々を中心に不快な思いを抱かせてしまいましたこととお詫び申し上げます。巻頭言は「80周年宣言」について書いたものでしたが、執筆に際して若い世代の減少に危機感を持ち、その世代を励まし育てることに強く意識が傾いていました。そのために、あるの方々にとっては受け入れ難い表現になってしまいました。改めて教えられましたのは、改革派教会は御言葉によって絶えず改革され続ける教会として歩む群れですので、どの世代も民族も互いを尊重し愛し合いながら、「神の国」が求める姿へと教会をともに変革していくことができるということです。困難のある時代の中、教派全体が「神の国」の進展のために共に仕えて行くことができるよう、今後とも神学校教育に励んで参ります。お祈りいただければ幸いです。

全校祈祷日



「全校祈祷日ってなんだろう」と疑問に思われる方もおられるかもしれません。この日、神学校では一旦授業を中断し、学生と教員が共に改革派諸教会のことや、世界の様々な問題を心に覚え、祈りの時を持ちます。また自らの召命について考えるために、毎年講師をお招きし、その先生がどのように召しに応えつつ歩まれたかについてご講演いただきます。今年は1月31日に全校祈祷日を行い、これまで大垣伝道所、恵那教会、静岡教会・静岡キリスト教盲人伝道センターで奉仕され、引退を間近に控えておられた遠山信和先生を講師としてお招きすることができました。

遠山先生には二回の講演をしていただきました。午前の講演では、先生が43年余りの伝道者としての歩みの中で、教えられ、心掛けてこられたこととお話しくれました。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」遠山先生は、ヨハネによる福音書15章5節には「キリストにつながる事」がすべてのことの前提であり、同時に人生の目的でもあることが示さ

れており、この言葉に支えられながら歩まれたこととお話しくれました。イエス・キリストにつながりつつ、ひたすらイエス・キリストを目標に歩む。それは自らの言葉と行いに「愛」を持ち、へりくだって相手を自分より優れた者と考え、最も小さい者を常に念頭に置きつつ歩むことであると語られました。イエス・キリストを目標とした旅路こそが、遠山先生が歩まれた道であったのだと思います。

午後の講演では、神学者バルトが書斎で聖書とともに新聞を熱心に読んだことに触れつつ、説教者はただ聖書テキストに閉じこもるのではなく、神の主権が及ぶ世界全体に目を向けつつ、自らが置かれた状況の中へと語りかけなければならないこととお話しくれました。

講演の後、私たちはそれぞれの場所に分かれ、自らの召命や全国の改革派諸教会、全世界のことを一人で静かに黙想し、祈る時間を持ちました。この日のために、各中会や多くの教会から祈りの課題を送っていただきました。各教会から送られてきた課題を読みながら祈っていると、神学校が全国におられる多くの方々の祈りと支援によって支えられていることをあらためて思われます。諸教会の皆さまと神学校が一つとなり、ますます神に仕える歩みを共に進めていくことができますよう、心から願います。

牧田 創（本科課程3年生）

春の信徒神学講座



私たちが形成している教会は果たして「真の教会」なのだろうか。そもそも「真の教会」とは一体何なのか。教会を形成する私たちにとって、これらは常に向き合わねばならない問いです。5月10日と17日に開かれた春の信徒神学講座では、これらの問いに向き合っている信徒の方々、特に長老や執事の方々や将来の役員の方々に向けて「信徒と役員のための教会形成論」と題して吉岡契典教授による講演が行われました。

1日目の講演は「目のつけどころ」という題で、教会の定義と真の教会が持つしるしについて学びました。まず取り上げられたのは、聖書が教会についてどのように語っているのか、また初期のキリスト教が教会にどのような属性を見出していたのか、でした。これらとは別の論点として、教会が真の教会であることを保証する「教会のしるし」について学びました。宗教改革においては「御言葉の純粋な説教」が第一義的なしるしとして強調されましたが、私たちはウェストミンスター信仰告白で聖書論の重要性を告白し、80周年宣言の草案でもこの点について触れ

られているとのことでした。そこでは「神の国を今ここに実現すること」が教会の目的であることが宣言されており、世の国とは異なる文化の形成こそが教会に求められていることが教えられました。

2日目の講演は、長老と執事という役職に与えられた務めについて確認することから始まりました。その上で、使徒言行録のいくつかの箇所に触れ、それらに示されている教会の姿から、私たちが目指す教会像を学びました。このような学びの中で改めて気付かされたのは、クリスチャンは一人一人が教会の一部であり、私たち自身が教会である、というリアリティです。ですから、私たちが教会を客観的に見ることは不可能であり、常に教会を形成する主体として教会と向き合う必要があります。同時に、教会はこの世におけるキリストの体であり、そのような存在と自分が結びついているという大きな恵みを思い起こすことができました。

信徒講座は一定期間オンラインで視聴することが可能ですので、少しでも興味を抱いた方は神戸改革派神学校のホームページから動画を視聴されることをお勧めいたします。また、今回の信徒講座では80周年宣言草案について少しだけ触れましたが、なんと、今年の夏期信徒講座は80周年宣言を取り上げるそうです。ぜひご参加下さい！

三野 豊（本科課程3年生）

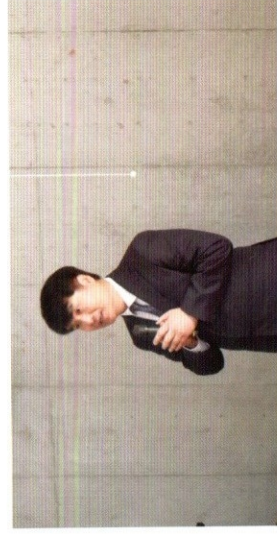
高麗神学大学院の
神学生との交流



第七三回卒業式と
卒業生歓送会



第七六回入学式と
新入生歓迎会



神戸改革派神学校

2026 年度新入生募集案内

激しい時代の変化の中で、変わることのない神の国の福音の希望を伝えるために、あなたの人生を主に献げてください!

本科課程 (4年制)

教職養成課程です。ゆとりある充実した授業とともに実践面を強化します。

★願書締め切り

2026
1/10(土)

短期課程 (2年制)

教会に献身する信徒のためのコース!
信徒説教者・信徒リーダーなど教会献身者の神学教育のために。

★入学試験

2026
2/10(火)

特別研究課程・ 聴講制度あり

*2025 年 4 月からオンラインで聴講ができるようになり、大変好評をいただいております。是非御利用ください。

まずは
お問い合わせ
ください。

